



ひとみ輝き 笑顔と笑い声がこだまする 赤江小学校



赤江小学校は、
開校 150 年
(明治 6 年
5 月 23 日開校)

すすんで
あいさつする子
になろう

あきらめずに
がんばってみる子
になろう

自分もあいても
大切に
する子
になろう

すすんで **あ** いさつする子
あきらめずに **か** んばる子
え がおで **安心**
学校生活を送れるように
自分も 相手も 大切に
する子



5 月 23 日は、赤江小学校が開校した日です



赤江小学校は、明治 6 年 5 月 23 日に開校し、今年で創立 150 年（令和 5 年度に創立 150 周年）を迎えます。「心豊かで、強く、正しく生きる子どもの育成」を目標とし、地域とともに生きていく校風は、今も脈々と受け継がれており、これまでに巣立った多くの卒業生が、各方面で活躍されていることは、皆様をご存知のとおりです。

この大きな節目を迎え、創立 150 周年を祝う取組を行い、子どもたちに赤江小学校に対する誇りや愛着、これまで赤江小学校を支

えてくださってきた多くの皆様への感謝の気持ちを育んでいきたいと考えております。

学校だより「ちまちだ」では、開校 150 年にちなんだ記事を紹介していきます。第 1 回は、元赤江小学校長 足立 耕 さんの「三つのことば」です。

「三つのことば」元赤江小学校長 足立 耕 さん

赤江小学校の校門をくぐり玄関に近づくと、前方と右方に二つの大きな石碑と玄関内に掲げられた古びた扁額が目につきます。この扁額は、明治 14 年赤江小学校が中島に創設されたとき、時の校長 堀 実 氏が、赤江に育つ青少年に強くたくましい根性を植えつきたいという願望から「其の根を培う」と書し、赤江小学校の永遠の校是として掲げられたものと伝え聞いています。

次いで、大石碑は、昭和 6 年、東赤江、今津両校の統合記念碑であり、時の県知事、大森氏の揮毫「厥の美を濟す」です。これは東西赤江の人々が、将来の赤江の発展の為、私利私欲を投げ捨てて大同団結し、両校の統合という難事業を成し遂げた美拳を云い表したことばであろうと推察します。

三つめは、校歌碑です。「みのりゆたけき千町田の・・・誠の道を一筋に」という校歌三節は、児童職員保護者の総意により、二十一世紀に生きる赤江小学校児童の信条にしたいと開校百年を記念して建立したものです。

この「根性づくり」「協力団結心」「誠心」の精神は、赤江小学校百年の歴史の背景として受け継がれ輝かしい伝統と立派な卒業生が生み出されたのであります。今後、学校舎の姿はいろいろ変わりますが、赤江小歴史の象徴として保存され、この精神が児童生徒の心に受けつがれ、生かされていくことであろうと信じています。

(「赤江教育百年誌」より、内容を抜粋して紹介しました)



～扁額「其の根を培う」～
玄関に掲げてあります。



～石碑「厥の美を濟す」～
赤江っ子クラブ前にあります。



～校歌碑～
西昇降口前の築山にあります。



木造校舎時代の写真です。校歌碑は開校百年と統合四十年を記念して昭和46年2月に建立されました。
(昭和35年卒業生の同窓会(平成20年開催)のDVDより、当時の写真を使用させていただきました)